

## 1 研究の概要

### (1) 研究主題

日本の伝統的な美術作品の特性と表現方法について関心を持ち、伝統や文化のよさや美しさなどを味わうことができる生徒の育成

—空間の表現を意識させる指導の工夫を通して—

### (2) 主題設定の趣旨

平成 25 年 6 月に富士山が世界文化遺産に認められました。世界から日本のよさが注目を浴び、毎年多くの外国の人々が日本を訪れています。平成 28 年中の 1 年間に、日本を訪れた外国人の数は 2,403 万 9,000 人で、前年よりも 21.8% 増えています（JNTO 日本政府観光局）。また、平成 32 年に東京オリンピックが開催予定であることから、更に日本を訪れる外国の人々の数は増加するであろうと思われます。加えて、近年「日本美術ブーム」とも言うべき状況が続いています。長谷川等伯展、阿修羅展、鳥獣戯画展など 2 時間、3 時間待ちになるのは当たり前のような状態です。日本人が自国の魅力を伝えられる以上に外国の人々が日本の魅力を知っていることに驚かされることがあります。

このように、日本に注目が集まっている状況で、美術科において生徒が日本の美術作品に興味を持ち、世界の人々に伝統的な日本の美術の魅力について伝えることができるような実践を行うことは、大変意義深いことだと考えます。平成 29 年 3 月に示された新学習指導要領の〔第 2 学年及び第 3 学年〕の B 鑑賞の内容では、「日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深める」<sup>(1)</sup>とあります。日本の美術作品を理解することで、自国のよさを知り国際社会を生きていく力を育むと考えます。また、国立教育政策研究所が、平成 21 年 12 月～22 年 2 月に中学生 3,300 人を対象に実施した、特定の課題に関する調査質問「美術の授業で、日本の伝統的な美術作品のよさや美しさを理解できますか」の調査結果で「理解できる」と回答した生徒は 11.9% でした。これは他の質問項目と比べ極端に低く、日本の美術作品についてそのよさや美しさについて感じ取らせる指導の必要性があると考えます。

平成 28 年度に研究テーマ『見方や感じ方について根拠を考えることのできる生徒の育成』において「ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ(VTS)」の考え方を基にした対話活動を授業に取り入れ、実践を行いました。VTS とは、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) が提唱したアートを通じて鑑賞者、学習者の「観察力」「批判的思考力」「コミュニケーション力」を育成する教育カリキュラムです。3 つの発問を通して、生徒は作品の中でどのようなことが起こり得るかを考え、その自分の考えや感じ方が、なぜ生まれたのかを考えることができました。さらに、自分の体験と結び付けて考え、作品の主題に迫る鑑賞ができました。

しかし、実践が平面の絵画作品の鑑賞活動であったため、日本の伝統的な屏風絵や障壁画などの美術作品については、VTS の考え方を基にした対話活動の有効性を明らかにすることができませんでした。特に、屏風絵や障壁画については平面の絵画作品として鑑賞してしまうと作品の本来のよさを理解することはできないと考えます。平面の絵画作品とは違う鑑賞の授業の在り方について明らかにしていく必要があると考えました。

そこで、本研究では、中学校美術科において生徒の鑑賞の能力を高めるために、屏風絵や障壁画を単なる絵画作品と捉えるのではなく、より広がりを持った立体的な空間の表現として制作されている

ことに着目し、作品の表現にどのような効果を与えているのかを考えさせ、その作品のよさを理解させたいと考えました。そこで、V T S の考え方を基にし「なぜ屏風に絵が描かれているのか」また「障壁画はどのような見方をした方がいいのか」について自分の考えを持たせ、根拠を考える授業について明らかにしようと考えました。V T S の考え方を基に対話活動を取り入れれば、日本の美術作品の表現方法について関心を持ち、伝統や文化に関心を持ち、よさや美しさを味わうことができる生徒を育成することにつながると考え、本研究主題を設定しました。

### (3) 研究の目標

日本の伝統的な美術作品について興味を持ち、作品の立体的な姿をイメージし、作品のよさや表現様式の特質について考えることができる指導の工夫を探る。

### (4) 研究の仮説

日本の伝統的な美術作品の鑑賞の授業において、作品の立体的イメージを持たせ他の作品と比較鑑賞活動を通して、考えたことや感じたことの根拠についてV T S の考え方を基に対話活動を行わせれば、伝統的な屏風絵や障壁画の空間の表現や作品のよさについて考えを持つようになるであろう。

### (5) 研究方法

- ア 日本の伝統的な美術作品の鑑賞についての理論研究と先行研究の調査の実施
- イ 日本の伝統的な美術作品のよさや表現様式の特質の理解について生徒を対象にした質問紙調査
- ウ 日本の伝統的な美術作品の鑑賞題材の考案と授業実践及びその検証

### (6) 研究内容

- ア 日本の伝統的な美術作品に関する文献調査を通し、指導法の工夫を探ります。
- イ 中学 2 年生の生徒に対し、日本の伝統的な美術作品のよさや表現様式の特質の理解について質問紙調査を実施し、生徒の実態を把握します。
- ウ 日本の伝統的な美術作品の分野における学習内容の関連を図った鑑賞題材を考案し、手立て（発問や見せ方）を工夫し、授業実践を通して空間の表現を意識した鑑賞活動の指導方法の工夫についての有効性を検証します。

### 《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月 第 6 節